

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390200352		
法人名	株式会社 大洲産業		
事業所名	グループホーム清風		
所在地	〒866-0013 熊本県八代市沖町字六番割3873-1		
自己評価作成日	令和6年2月26日	評価結果市町村受理日	令和6年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和6年3月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の意思を尊重し、生活リズムに合わせた支援を心がけています。できていることを維持しつつ、どのような支援が必要か常に考え、利用者様にとってより良いケアができるようにカンファレンスで話し合い、情報共有してケアにあたっています。季節ごとの行事や作業等を利用者様とスタッフが一緒に無理のない範囲で楽しみながら生活しています。研修会にもできるだけ参加して、対応や知識を学び、日頃の介護実践に役立てるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な地域の中で最高齢97歳、平均介護度も3.2という重度化にあるが、介護度の如何に関わらず初詣やドライブ等の支援に共に生活する入居者を支える職員の姿勢が表われている。夏祭りでは法被で気分を盛り上げる等季節毎の行事、職員が創意工夫しながらのアクティビティや、家族の協力による外出等連携しながら入居者の要望に応え、一瞬の楽しみや気分転換に努めている。入居者の生活歴により個々の思いに寄り添い、自由な時間での生活(起床や朝食の時間等)等個別ケアは“その人らしさ”に注視した職員のケア姿勢として表われている。運営推進会議を生かした運営とともに、職員会議でケアの方向性を統一し、入居者の最終章への取り組みや研修会への参加等志向を高めて臨むホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づきケアの実践を心掛け、カンファレンスで皆で振り返りながら話し合い、よりよい介護につなげられるよう努めている。	理念をケア規範・原点として、カンファレンスでは理念や介護理念を想起させながら話し合い、生活歴によつての違い等入居者個々に寄り添い、その人らしさに注視した支援に努めている。入居者の介護度が高くて、一瞬の楽しみのある生活を支援する等ホームである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を開催することで、少しずつ外部の方とふれあう機会ができてきた。コロナで絶えたつながりをこれから構築していかなくてはいけないと思っている。	地域の中での生活はコロナ禍で途切れがちではあったものの、正月には地元の神社への初詣やドライブ等により地域へ出る機会としている。運営推進会議の中で町内会の行事への参加を依頼し、地域との交流促進に努める意向である。	地域住民との交流により入居者の生活の刺激に繋がりたいと意欲的な姿勢である。ホームにいて妙見際の亀蛇を見学することが出来ており、地域住民がホームに立ち寄りきつかけ作りの一環とされることや、町内の行事等に参加することで地域の中での生活が更に拡充されることと期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年も地域の方々との交流はほとんどできていない。コロナ前にあったつながりを徐々に復活させることから始めて、清風の生活や日々の取り組みを発信して認知症の理解につなげたいと考えている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市や地域包括、町内会、ご家族に参加していただき、活動だけでなくヒヤリハットや事故報告等ホームの現状を報告している。いただいた意見やアドバイスをケアの向上に活かしたいと考えている。	コロナ感染症の状況を見ながら、書面審議から対面での開催へとなり、活動状況から研修報告、事故・ヒヤリハット等の報告をもとに意見交換が行われている。入居者も参加されることで認知症啓発の一環としても生かされ、活動の可視化(写真等)は、その時々表情等の発信源として有効に活用されている。参加者からもアドバイスや要望も多く、有意義な会議が開催されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいた折にホームの活動報告をお伝えしている。また事故報告時にアドバイスを受たり、制度の変更や介護報酬改定時に部会全体で指導していただいている。	運営推進会議の中で、事故報告書提出の有無や書き方等の指導やアドバイスを得ている他、地域密着型事業所連絡協議会開催に地域包括支援センターからも参加を得て、介護報酬改定や運営規程等について説明を受けている。介護認定更新時を代行し、訪問調査時に現状を発信しながら情報交換を行う等協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会に参加し、身体拘束にあたる行為を学びなおすことで、正しく理解できている。カンファレンスでケアについての話し合いや定期的な身体拘束の適正化委員会で検討することで、日頃のケアについて再確認している。	身体拘束適正化委員会をして全員での検討や運営推進会議の中で拘束等について話し合う機会を作っている。八代郡市のグループホーム連絡協議会の中での研修(身体拘束の排除及び虐待防止等)に参加し、ホーム内で複講し全職員が学びを深めている。入居者の自由に任せ、好きな時間で起床し朝食時間も決めないとして自由な生活を支援している。	入居者の外出傾向や外出したい思いを察知し、所在確認を徹底されているが、職員の手薄時間帯の対応について、今一度全員で検討頂きたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加して学ぶことで理解を図るようにしている。また、カンファレンスでケアの仕方について話し合うことで不適切なケアではないか考える機会になっており、お互いの気付きにもつながっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加することで学びを深めるようにしている。成年後見制度については、資料をいつでもみられる所に置いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は重要事項説明書・契約書に説明を加えながら読み上げ、疑問点がないか確認している。また、料金改定や報酬加算の変更等もその都度説明して納得いただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の訪問時や電話時に利用者様の日頃の様子を伝えると共に意見や要望を伺うようにしている。伺った要望は職員の連絡ノート等で情報共有して対応に努めている。玄関にご意見箱を設置して、直接言いにくいことも受け付けやすくしている	家族の訪問を控えて貰っていた状況から今では制限せず居室での面会も可能として、意見箱の他、家族の訪問時や電話により状況を伝えるとともに意見や要望を聴取りしている。運営推進会議も問題提起の場として意見等聞く機会としている。家族からの意見や要望は連絡ノートを介して共有している。	家族へ1ヶ月の様子や写真等を活用した情報の活用や、家族との交流等を検討いただき、家族との楽しい時間を過されることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や要望は、直接管理者に伝えたり、カンファレンスで話し合い、管理者を通して代表に伝えるようにしている。要望等は必要に応じて対応していただいでいて、改善に努めている。また、代表と職員の直接面談を1回行っている。	毎月のカンファレンスによる職員の意見や提案を出し合い、異動等の代表に上申している他、物品やベッド・ソファ・食器乾燥機等も買い換えの時期として新たに整備されている。代表もホームに訪れ、日々の様子を確認したり、個別面談により職員の意見交換により要望等を聞き取りされている。職員は年間目標を持って日々のケアに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得のための費用を負担してもらい、スキルアップにつながる環境を整えてくれている。職能評価シートの使用や日頃の仕事に対する努力で評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム部会での研修や外部の研修参加で学びの機会を確保している。初任者研修等スキルアップのための研修の受講を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会への参加により管理者同士で直接会う機会があり、観戦情報やお互いの悩み等意見交換を行っている。職員も研修会に参加することで他事業所の介護を知る機会になり、交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居にあたっては、本人様の表情等様子観察しながら気持ちや考えている事、困っている事を傾聴して受け止め、信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の利用者様への思いや要望等しっかり聞き、意向に添えるよう努めている。何でも遠慮なく話していただける信頼関係づくりを目指している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談時にご家族やご本人から話を伺い、何を望まれているか、どのような事に困っておられるかの把握に努めている。事業所での対応が困難だと考えられる場合は、他の選択肢もお伝えするようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることを一緒にしていただき、生活を共にする一員としてお互い支え合う関係作りをしている。軽作業をしていただいた時はお礼の言葉と共に感謝の気持ちを伝えるようにしている。利用者様との会話からの学びも多く、一緒に笑い合いですごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や受診時にご家族の希望や要望伺い、こちらからは日頃の様子等お伝えして話し合って支援するようにしている。利用者様からの要望等があれば、ご家族にお伝えし、出来る限り対応していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの理美容院に行ったり、ご家族の毎月の法事のお誘いに出掛けるよう声掛けしている。また、ご家族との外出や面会も多くあり、感染に配慮しながら関係が途切れないよう支援している。	家族の訪問の他、毎月仏様参りに出かける方や、家族との馴染みの喫茶店に出かけコーヒーを楽しむ入居者、初詣や十五夜・七夕短冊作成等等これまでの関わりが途切れないように支援している。帰宅願望のある入居者への支援として遠方の親戚を訪ねる等家族の協力を得て支援している	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物たたみ等作業をされている利用者様を他の利用者様が率先して手伝ってくださったり、話しかけている姿があり、職員は見守りながら、何かあったらすぐ介入できるようにしている。利用者様同士が会話を楽しめるように配席に気を配っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も利用者様のことやご家族の様子を伺う電話をかけて、何かあったら相談して欲しい旨伝えている。今後、面会制限がなくなれば直接会いにいきたいと思っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の話をしっかりと傾聴して、希望や要望の把握に努めている。利用者様の意思表示が困難な場合は、ご家族からどんな生活を送られていたか好まれていたことは何かを伺い、今の利用者様ならどうしたいか話し合い、検討している。	生活歴把握した好きな物・趣味・嗜好等と共に、日々の生活の中で、希望や要望である“したいことや行きたいこと”等ゆっくりと問いかけながら把握している。また、言動や行動等にどうされたいかという視点をもって関わるとともに、入居者によっては短めに分かりやすい声かけや、“はい いいえ”で返答できるような声かけにより自己決定の場を作る等、本人本位になるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の面会の折に利用者様の日頃の様子を伝えながら以前はどうだったか伺っている。利用者様との日常会話の中からどんなことをしていたか伺い、これまでの情報に加えて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様ができること、できるようになったこと、手伝えばできること、できなくなったことの把握に努め、情報共有することで必要以上の介助をせず、ご本人の力を活かすようにしている。定期的なバイタルチェックや一日の過ごし方を記録することで心身状態の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時に担当者会議を行っていて、利用者様やご家族の要望等伺いながらカンファレンスで出た日々の気付きや意見も合わせて話し合い、作成している。	毎月のカンファレンスによる職員の意見や、3ヶ月毎のモニタリング、半年毎に見直すプランは、既往歴から体調に気を付けて欲しいや転倒なく元気に過す事等の家族の意向を具体化したプランや、退院後食形態や歩行状態等によりプランの見直しが行われており、現状に即したプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録されたことを職員が読み返したり、重要な事は申し送り、情報共有に努めている。職員によって記録量にバラつきがあり、記録の仕方にも学びを深める必要がある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の要望にできるだけ応えることができるよう努めているが、多様な支援はできていない。今後、利用者様やご家族の状況に必要な支援ができるようにしたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月の法事に出掛けたり、なじみの理美容院に行ったり、以前通っていた喫茶店ご家族とコーヒーを飲みに出掛けられた利用者様もいる。現在活動中の地域資源が把握できていないので、今後地域の方の力を借りながら、利用者様が豊かな暮らしができるよう支援していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	入居前のかかりつけ医に継続をお願いしているが、受診はご家族対応なので、困難な場合や希望時に往診の選択があることをお伝えしている。新規の受診科目でかかりつけ医がない場合は相談にのり、納得を得て受診してもらっている。	入居前からのかかりつけ医を継続して支援している。家族による受診対応が困難になられた場合、往診可能な医療機関について説明を行なっている受診結果や健康状態についてホームと家族が共有を図っており、服薬の方法など質問や要望を出される方もおられ職員は丁寧に応じている。専門医受診は家族が対応されている。口腔ケアについては食後の歯磨きの声掛けや口腔状態の把握に努め、必要時に訪問歯科で対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を常勤で1名雇用している。利用者様の日々の変化や気づきを看護師に報告・相談することで必要な対応に努め、早期の受診ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供ではADLだけでなく、ご本人のケアでの注意点や日頃の様子を細かく伝えることで、少しでも負担を減らすことができるように努めている。退院前には、以前とは変わられた点や注意点、ご家族の意向を確認して施設で受け入れることができるか医療機関と検討し、話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針や事前指示書について説明し、意向を確認している。状態変化したときだけでなく、ご家族との日頃の会話の中で終末期に対しての考え方を汲み取るようにしている。	看取りまで支援する事を記した指針や事前指示書について説明を行ない意向を確認し、その時々で家族と話し合う事としている。殆どの方が延命治療などなく、ホームに出来得る看取りを希望されている。この1年で入退院を繰り返されホームで最終を迎えられた方が1名おられる。その際コロナ感染症に十分配慮し、家族の面会を支援している。支援後振り返りの中で、もう少し傍に寄り添う時間をもてなかったか・・・コロナ禍にあり他の入居者の見守りもあり難しかった・・・などの意見があがったようである。	ホームは入居者の状態に変化が生じた時だけでなく、日頃の家族との会話から終末期への考えをくみ取り、職員間で共有している。今後も入居者・家族の思いに沿った支援に努めていられる事が期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会に参加することで応急手当等知識としてはあるが、全ての職員が実際に落ち着いて対応できるかは難しいと思っている。今後、実践的な研修に力を入れ、いざというとき落ち着いて対応できるようにしたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回火災を想定した避難訓練を行っているが、参加者が利用者様と職員のみとなっているので、地域の方の協力を得て一緒に訓練出来るよう努めたい。水害対策机上訓練しかできておらず、実際に避難することで気付けなかった問題点の把握に努めたい。	年2回火災を想定した避難訓練を実施している。昨年3月の避難・消火訓練の際は入居者も水消火を体験されており、広報誌の中でも写真を添えて紹介している。11月にの訓練では避難を中心とした訓練を実施しており、この3月には夜勤者1名で地震を想定した訓練を予定している。BCPIについては作成が済んでおり、備蓄も災害用と感染症用で確保されている。	地域や運営推進会議の協力を得た訓練を実施したいとしており、家族の参加もある事で更に充実した訓練になる事が期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修で学びを深め、カンファレンスで日頃の言動が利用者様のプライバシーの確保や尊厳を損なっていないか話し合うようにしている。声掛けや介助をする時は、利用者様の意思を尊重するよう心掛けている。	職員の言葉遣いには尊厳に配慮しながらもわかりやすい対応を心掛けている。丁寧すぎる言葉や親しみも度合いによって本人や周囲も不快になる事があることを職員間で共有している。身だしなみの支援として定期的に訪問カットを支援しており、中には「あまり短く切らんで！」と要望される方もあり、意向を伝えている。家族と受診外出をした際、行きつけの理美容院でカットをし帰園される入居者もおられる。	今後は職員の守秘義務や入居者の写真掲載など書面による確認が望ましいと思われる。早急な取組が期待される。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動するときは利用者様のペースで行っていただき、決して無理強いしないようにしている。介助中も声掛けしてできるだけご本人の意思に沿うようにしている。意思表示が困難な利用者様は表情や動きから思いを汲み取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事等定期的声掛けはするが、利用者様の好きな時間に休まれたり散歩に行かれたりと自由に過ごしておられる。散歩に行かれた時や居室で過ごしておられる時は、定期的に安全確認している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なじみの理美容院に行かれる利用者様もおられる。他の利用者様は出張散髪に来ていただいて、ただ短く切るのではなく、利用者様の好みの髪型を伺い、対応していただいている。着替えの折には、利用者様の着たい服を選んでいただくようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日は利用者様の好きなメニューを伺い、行事やイベントでは担当がアイデアを出して提供するようにしている。梅シロップや干し柿作り、おやつ作り等にも参加していたき、食べる楽しみにつなげている。	開設時から肉、魚など専門店からの食材配達や専任者、職員による調理が継続されている。食事形態も常食の他、ミキサー、きざみ(小・荒)一口大など個々に応じて準備され、食前には口腔体操として発声練習などを取り入れている。日々の食事に加え、正月やひな祭り、誕生日も好みを聞きながら当日に祝う等イベント食も工夫されている。職員も同じものを摂っており、思いを共有できている。魚より肉料理を好まれる方が多いようである。入居者は食後のおぼん拭きをはじめ、梅シロップや干し柿づくりなど季節の行事として楽しんでいる。	ホーム内調理は音や匂いも間近に感じながら入居者の楽しみに繋がっていると思われ、継続した取組に期待したい。デザート提供について、内容によってはスプーンで食べる方が美味しさも増すものと思われる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を記録し、不足していると思われる場合は嗜好品を提供し、摂取を促している。食事をほとんど摂取されない利用者様には栄養補助食品で対応し、必要量が摂取できるよう時間をおいて何度も声掛けしている。利用者様の状態把握に努め、適した食事形態やトロミを使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛けや介助をしている。口腔ケアを好まれない利用者様には、タイミングを図り促している。口腔状態の把握に努め、必要に応じて訪問歯科をお願いしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握して誘導することでトイレでの排泄につなげている。日中と夜間の排泄状態に合わせて布パンツとオムツを使い分けている。排泄状況に変化がある場合も安易にオムツに切り替えず、スタッフで検討している。	日中はトイレでの排泄を基本とし、夜間はトイレかオムツの使用を支援しており、ポータブルトイレを使用される方はおられない。失禁時の対応は理念に沿って個々に応じてできるよう、職員間で話し合っている。排泄用品はホームで準備しているが、家族が持参される場合は、サイズなど適切な品を伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	手作りヨーグルトの提供や体操等運動する機会を設けるようにしている。水分量をチェックすることで不足している方には摂取を促す声掛けをしている。排便状況の変化によって主治医に緩下剤等の使用量を相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の声掛けに気がすまれない利用者様には、日にちや時間を変更して無理強いないようにしている。1人で入浴をされたい利用者様は、定期的に安全確認して時間がかかっても本人様のペースで入浴してもらっている。	個々の身体状況に応じ見守りや介助で基本的に週2回、午後からの入浴を支援している。職員は「お風呂を炊てたけん入りませんか」「明日は病院だから入るときましようか」など入浴への気持ちを高められるような声掛けを行っている。脱衣所や浴室は広いため、冬場は特に保温に配慮し湯船に浸かってもらっている。浴槽へのまたぎが難しくなれた方はリフト浴で支援している。「今日は寒かけん入らん」など拒否がある時は、再度の声掛けや翌日に変更するなど納得して入ってもらうようにしている。	入居者の中には自分なりに着替えを準備される方もおられ、本人の選択を尊重しながら必要なサポートが行われている。また湯温も好みがあり先ずは足元にかけてみて調整するなど細やか対応による入浴支が支援されており、変わらぬ取組に期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	独歩の方は好きな時間に自室で休まれている。その時は室温や光の具合を調整してゆっくり休めるようにしている。臥床中にレクや食事等で声掛けすることで生活リズムが崩れない様にしている。意思表示が困難な方は疲労感がみられた時に臥床介助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服一覧表とお薬情報を一つのファイルにして職員がいつでも確認できるようにしている。薬のセットや服薬介助時はダブルチェックすることでミスがないように努めている。服薬変更後だけでなく、日々の状態を主治医に報告することで服薬調整に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お盆拭きや洗濯物たたみ等軽作業をお願いしている。外出好きな方の気分転換にドライブに出掛けている。ご家族の面会時自室にておしゃべりや果物等召し上がり楽しまれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩好きな方には、好きな時に散歩してもらっている。ご家族から外出のお誘いやお正月には自宅での食事を楽しまれたり、ご家族と一緒に喫茶店でコーヒーを飲まれたりと少しずつ外出の機会が増えてきている。	長閑な近隣地域やホームの駐車場を活用しながら入居者の希望で自由な散歩を見守りや同行のもと支援している。桜の花見など車窓ドライブや自宅近くを通った際は、家までの道順を嬉しそうに話される場面も見られたようである。新年には介護度の高い方にも地域神社へ初詣が実現できている。入居者にとって馴染みの妙見祭亀蛇訪問では庭先で歓迎しており大変喜ばれたようである。家族の協力による外出は入居者の気分転換として生かされており、コロナ禍以前の外出に近づいてきている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口は施設で預かり管理している。まだ買物に出掛けられていないが、利用者様の嗜好品等を家族様の許可をもらい購入している。当月分の現金出納帳のコピーを郵送している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が希望された場合にご家族様に電話をかけていて、電話がかかってきた場合は話しやすいよう自室や一人きりになれる場所で話していただくようにしている。手紙は書けていないが、年賀状に一筆添えていただいた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下に行事の写真を掲示して移動の折に楽しめるようにしている。ホールからキッチンがみえることでいつも人がいる安心感を与えている。テレビの音量や室温や湿度に注意して快適に過ごせるように気をつけている。	リビングホールは食事やレクリエーションなど日中の活動の場となっており、快適に過ごせるよう温湿度管理を徹底している。設置された2台のテレビをお気に入りの場所で見たり、うたた寝をされる姿も見られた。ユーチューブを活用しながら体操や50回チャレンジ風船バレーなどが日課となっており、入居者と職員の歓声が聞かれた。台所は対面式であり、毎食の調理の音や匂いを間近に楽しめる環境である。ゆとりのある廊下の壁にはイベント食や誕生会、外出行事の様子を写真で紹介されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者様同士と一緒に座ったり、その時の気分で座られる場所も変わることができるようソファを複数設置している。トラブルになりにくいようソファや椅子の配置を考えて設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が使用されていた馴染みの家具や仏壇を持参されている。持ち込まれる家具については、ご本人が安全に使えるものであるか、ご家族や職員で話し合っている。	これまで使用していた馴染みの品が持ち込まれた居室は広さも十分でありクローゼットも備わっている。家具をはじめテレビの持込みや、仏壇や遺影、お位牌を置き、水を供える方もおられるようである。テレビや家具などは安定感があるか、移動の妨げにならないか等安全面にも気を配り、状況によっては持ち帰りを依頼している。居室のエアコンは昼夜、個々に応じて温度調整されるなど細やかな取組である。現在、家族等の面会は短時間であれば、玄関内やホール、居室で自由に行ってもらい安心に繋げている。	居室への持ち込みの品として、危険に繋がるような品について改めて説明されることも必要と思われ、検討頂きたい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自ら口腔ケアをされる利用者様の口腔ケアセットの位置を固定して間違わないようにしている。トイレの掲示をして居室と間違わないようにしている。車椅子利用の方が自走できる動線を確保している。		